

各地の

たより



「三本杭に登るぞー！」 高校生に森林環境教育

〈ふれあいセンター〉

六月二日、高知県立四万十高校一年生二四名を対象に、高知県と愛媛県の境にある八面山やっつらやまと滑床山なめとこやま（通称、三本杭）へ登山訓練を兼ねた森林環境教育を実施しました。

四万十高校では、例年、自然



八面山頂の高校生達



森林帯についての学習

環境コースの新生入生を対象に、鹿児島県屋久島で自然体験研修を実施しています。

今回は、そのための体力養成・登山訓練、自然環境学習をしたいとの学校の意向を受けて実施しました。

当日の天候は、前日の雨から回復しつつあるものの、登山口付近（標高一、一〇〇m）は、ガスが立ちこめ肌寒く、生徒は「寒い寒い」と平地との温度差に驚いた様子でした。しかし、生徒もこの日を楽しみにしていたとのこと、山の空気を吸い込んで元氣よく登山を開始しました。

登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンジカによる樹木の剥皮害についての説明を受けながら登って行きました。ブナの群生林では、植生が四国南西での限界地域であるこ

と、稜線を挟んで一つの山にありながら、温帯林の滑床側と暖帯林の黒尊側がある珍しい山であることなどを説明しました。また、今回の森林環境教育にあたっては、当センターの「滑床山での自然再生事業」等の資料を学校に送り、学習してもらっていたことから、現地では自然再生の取組みの必要性等がより理解できたようです。

最後に生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についているような体験や学習ができました。自然再生も重要な取組みであり大切さも理解できました。屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います。」との感想があり、ふれあいセンターも学校の意向に沿えることができたようです。

工石山にヒノキの 展望台が完成

〈嶺北森林管理署〉

六月十一日、当署管内の自然休養林であり多くの人々に親しまれている工石山レクリエーションの森に高知県内の国有林から産出したヒノキによる展望台が完成しました。

工石山には森林環境教育で訪れる小学生が多いため、登山口から五〇分ほどの赤良木園地周辺に小学校低学年が利用

できる新たな施設が求められていました。

一方、高知工業高校では、建築科のカリキュラムにおいて生徒に建築技術を習得させるため、実習の中で木造の建築物を製作しており、これまで手がけた高知城の観光案内所などの作品が木材の良さをPRしていることが分かりました。

これを知った工石山レク森の関係者が、木造展望台の製作を高知工業高校に依頼していたところ、このほどヒノキの香りと木のぬくもりが溢れる展望台のお披露目となったものです。

展望台の製作にあたっては、四国森林管理局が材料となるヒノキの柱や板を提供、高知工業高校建築科の三年生十六名が力を合わせ、設計から継手・仕口部分の加工及び仮組み、基礎や柱・梁部分の設置



り、高校生にとって大きな自信がつく機会となりました。

赤良木園地での組み立て作業は雨にたたられ続きで、生徒たちは寒さに震えながら、水分を吸って膨張した木材の組み立てに格闘するなど、苦労がありました。展望台内側へ製作に携わった生徒と教員の氏名を彫り込んだ看板を設置し、最後は完成した展望台の前で記念写真を撮影。笑顔で成果を満喫していました。

展望台の大きさは、一階床の高さが地上から約三m、二階部分の床面積が約八㎡の本格的なもので、工石山を訪れる登山者や森林環境教育でレク森を利用する児童・生徒のみならず、高知市の市街地や太平洋の眺めを楽しんだり、お弁当を広げる休憩所として使われることになりました。

なお、今後の管理については、工石山レクリエーションの森管理運営協議会で行うこととしていきます。

作業、床板・腰板の取り付け、金物による補強などの工程を経て完成に至ったものであ



親子で写真立て作り挑戦

〈徳島署〉

五月二十二日、徳島市ふれあい健康館内の親子ふれあいプラザからの要請を受け、親子約三〇組を対象に木の枝で作る動物を使った写真立て作りの木工教室を開催しました。

当日は当署職員が、材料が徳島県産のスギやサクラであることとを説明した後、ボランティアグループと、徳島水源林整備事務所の職員など九名のスタッフの助けのもと、製作に取りかかりました。

子どもたちは木の枝でイヌやクマやパンダがで上がることに目を輝かせ、マイ写真立てを動物や木の実で思い思いに飾り

付けました。

細かい作業は難しかったようですが、スタッフの力もかりて、全員時間内に作品を完成させることができて、「次は違う動物も作りたい、早く家族に写真立てを見せたい。」という声が聞かれました。

みんなの力で枯れた

ササ原に緑の再生を

〈高知中部署〉

五月三十日、当署や「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、三嶺山系においてニホンジカの食害から森林を守るための作業が行われました。

今回で八回目となるこの作業には、香美市、香南市、南国市の各市長をはじめ、総勢百四〇名の参加があり、三嶺の環境を守る取組に対する関心の深さがかがわれました。

作業内容は、標高千七百mの稜線部の枯れたササ原にネットの柵を張ることと、登山道の周辺で、一本一本の樹木にネットを巻き付けることです。

参加したみなさんはとても熱心で、しかも手際よく作業を進められ、おかげで、八箇所の柵の設置と、樹齢二〇〇年を超えるモミの木など三八八本に



八班に分かれての防護柵設置作業

ネットを巻き付けることができました。

これまでの作業を合わせて、この稜線部のササ原には、周囲延長百mの柵が十六箇所設けられたことになりました。

昨年の作業で設置した柵の中では、植物の小さい芽が出始めており、一面枯れていたササ原のあちら、こちらで今年の夏頃には、再生への足がかりを得た山の表情が見られるものと思います。

早朝から午後三時頃までかけて、作業を行った皆さんは、三嶺山系の雄大な景色を満喫しながら全員が無事に山を下りました。

三嶺山系に登られた時には、ネットの効果が遠方からでも確認できますので、是非ご覧ください。

三嶺清掃登山

〈高知中部署〉

五月三十一日、「三嶺を守る会」の主催により当署も参加した第三四回清掃登山が三嶺山系において行われました。

当日は九団体と一般の個人参加を合わせて八六人が九コースに分かれ、コース沿いで二ホンジカによるササ食害の調査と併せてゴミ回収などを実施しました。

当署が担当したコースは、西熊林道のゲートから葦生越まででしたが、登山者のマナー向上によりゴミはほとんどありませんでした。

しかし、一部の避難小屋に放置されたゴミなどにより全体で九〇キロと昨年度より多くのゴミが回収されました。誰もが気持ちよく利用できる小屋となるようゴミの持ち帰りをお願いします。

清掃登山は毎年この時期に行われています。ゴミの回収量



山嶺清掃登山に当署も参加

がゼロになるよう、山に入る一人一人が四国の美しい山々を守っていききたいものです。

【お知らせ】

「CO₂ CO₂ CO₂」
歩いてエコして
健康!

〈職員厚生課〉

高知県では「よさこい健康プラン21」を策定し、「日本一の健康長寿県」を目指して「1に運動 2に食事 3に禁煙 最後はクスリ」をキャッチフレーズに、地域や職場で取り組むこととしていきます。

当局においても、高知県健康づくり課より依頼を受けて、高知県民より募集したバナー（健康標識）を階段に貼り職員の意識の高揚に努めています。

